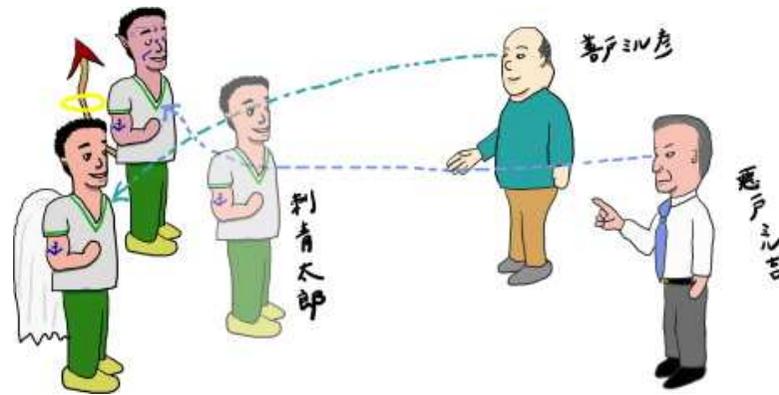


悪い善い人 - 3



東郷 潤

ここに刺青をした刺青太郎さんと、刺青太郎さんがどんな人かと考えている悪戸ミル吉さん、善戸ミル彦さんがいます。善戸ミル彦さんは、刺青太郎さんを愛に溢れた善い人に違いない、と思いました。一方で悪戸ミル吉さんは、刺青太郎さんを常習的な犯罪者だと思いました。

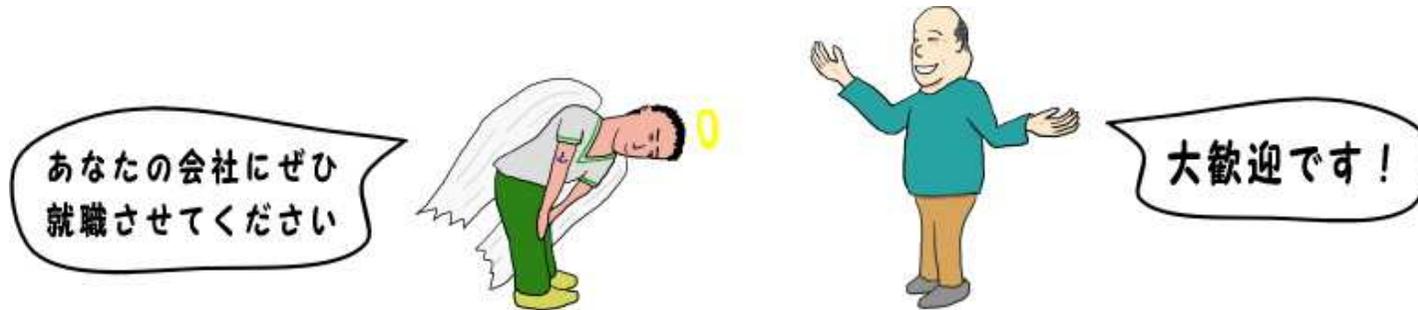


それで、実際はどうなのでしょう？・・・現実の刺青太郎さんは、常習的な犯罪者でした。



善戸ミル彦さんは刺青太郎さんをととても善い人だと思ったので、その認識に基づいて刺青太郎さんを扱います。

例えば、善戸ミル彦さんが就職の面接官なら・・・



善い人を積極的に雇おうとするのは、当たり前のことです。

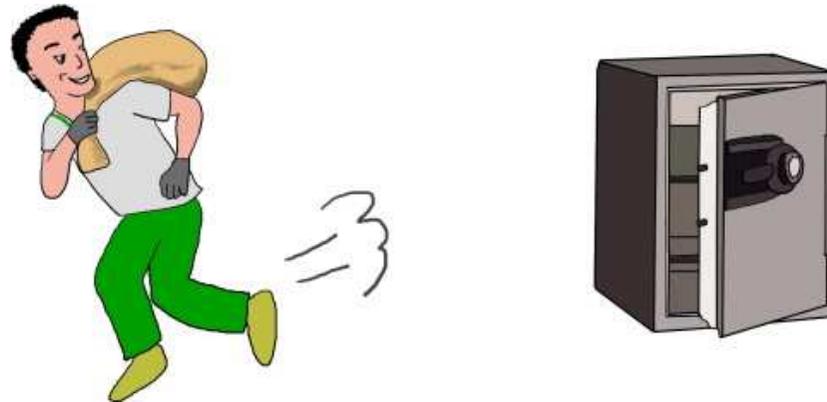
悪戸ミル吉さんは刺青太郎さんを悪い人だと思ったので、その認識に基づいて刺青太郎さんを扱います。例

えば、悪戸ミル吉さんが就職の面接官なら・・・



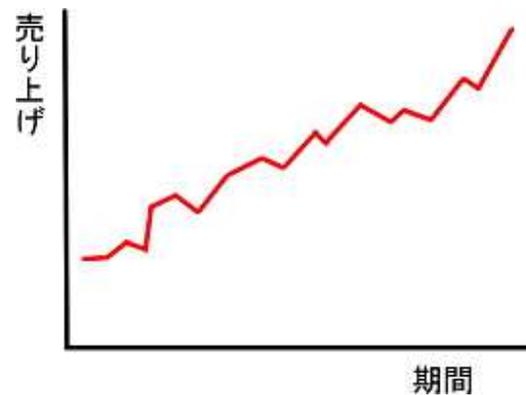
悪人らしき人を不合格にするのは、当たり前のことです。

こうして刺青太郎さんは善戸ミル彦さんの会社に雇用され、すぐにお金を盗んで逃げてしまいました。



その結果、善戸ミル彦さんの会社は倒産してしまいました。

悪戸ミル吉さんの会社は刺青太郎さんを雇うことは無く、会社のお金は無事でした。



悪戸ミル吉さんの会社は倒産せず、その後、大いに発展しました。

認識を間違えることは危険です。認識を間違えて、望む結果を得ることも出来ません。それは善でも悪でも差別でもない、当たり前のことには過ぎません。



あとがき ー絵本「悪い善い人ー3」

本絵本は差別をテーマとする絵本集の1作品です。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、ぜひ他の方にもご紹介いただきたくお願い致します。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2013